

【現代語訳】

廬山二景勝 其の一、

開先漱玉亭（飛瀑の水泡漂う開先寺付近か） 蘇軾（号は蘇東坡）

廬山に私が旅したとき、南北に十五、六箇所箇所の素晴らしい景観があつたのだが、やはり、素晴らしさの序列は否めない。

怠つて、多くの詩は作らなかつたかも知れぬが、

其の中でも良く出来たのを二首、掲げよう。

夕日が高い巖山の向こうに落ちると、

深い谷には物悲 風が吹いてくる。

青玉峡は裂き開かれていて、

その両山には白龍が飛び出てくるような瀧がある。

瀧の飛沫は霜か雪のようになって飛び散り、

古来の淵は、雲一つない青空を映して波立っている。

瀧の支流は本流の瀧音に打ち消されて音もなく滑り下り、

両山が抱く大きな岩の谷に勢いよく注ぐ。

私はここに来てみて、心打たれて去りがたく、

すでに月は出でて東の空に飛ぼうとしている。

瀑布は蕩々として白銀の門となり、

下は深い／＼ところに水の精が住む宮殿がある。

願はくば琴の音を高々と弾きならしておいて、

禁漁の赤鯉公をたとえ踏みつけることになろうとも、

白き蓮を手にとって、冷たい水中に飛込みたい衝動にかられる。

